



かみまち議会だより

GIKAI-Press

● 6月定例会

住民バス 制度改定のポイント……………P2
議案審議(振興公社決算報告など)……………P4
一般質問 町政を問う(10人が質問)………P8
特別委員会・視察レポート……………P14



歩き！学び！ゴミ拾い！最後は笑顔で

「加美町ウオーキング2025～夏～」

(関連記事7ページ)

議会中継はこちらから



加美町議会映像配信

検索

<https://kami-town.stream.jift.co.jp/>



もっと気軽に



住民バスの路線図は
加美町公式ホームページ
でご覧いただけます



住民バス改定のポイント



廃線路線が学生の通学専用で復活

小野田地区および宮崎地区から古川方面へのバス路線は長らく廃線になっていましたが、令和7年4月からJR西古川駅までの通学専用路線として復活しました。これにより、中・高生が交通手段の有無にかかわらず進路を選択できる環境を構築します。



通学費補助を導入、自己負担最大月額7,500円に

通学費用・送迎の負担を軽減するため新たに通学定期券の補助制度がスタート。学生一人当たりの自己負担額が最大で月額7,500円になるよう補助されます。大崎管内だけではなく仙台方面への高速バスの通学利用なども対象です。



AI活用でデマンドバスの当日予約が可能に（11月～）

これまでのデマンドバスは、前日17時までの電話予約が必要でしたが、当日予約（出発の1時間前まで）を可能にするためAIシステムの実証導入が11月から始まります。



もっと便利に

加美町議会では、住民の足となる公共交通機関の充実、特に住民バスの利便性向上について、これまで多くの質問・提案を行ってきました。今回の定例会では、住民バスの利用状況などについて3人の議員から一般質問がありましたので、制度の改定のポイントを含め質疑の内容をお知らせします。

町長および担当部署となる企画財政課からは、既存路線の見直しや新たな通学支援、そしてAIを活用したデマンド交通の導入計画など、より多くの住民に利用してもらうための取り組みが示され、住民の生活をより豊かにするための交通網構築への強い意欲が感じられました。

住民バス西古川線（令和7年4月）利用状況

小野田系統

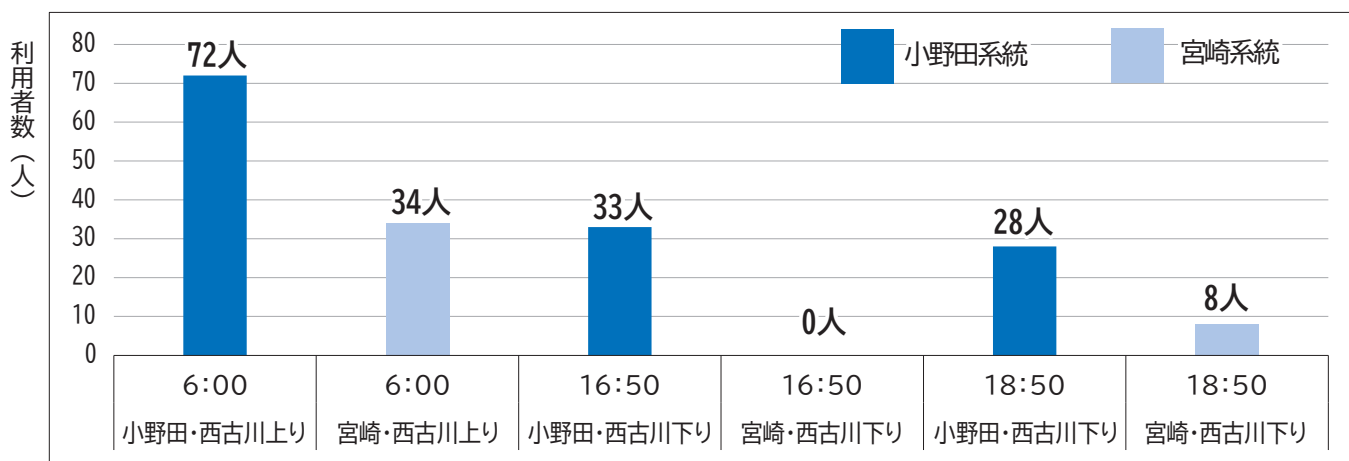
延べ133人

宮崎系統

延べ42人

西古川駅の利用者状況

利用者の9割が自家用車でのご送迎



問 利用が少ないバス停の位置の変更や、運行時間の見直しは可能なのか。

答 利用状況調査で寄せられた意見を踏まえ、運行時間や停留所の位置など、運行計画の早急な見直しに取り組みます。住民ニーズに合わせて路線の再編成を進めていきます。

問 通学費補助の対象をJRのみ利用者や大学生・専門学校生に拡大できないか。

答 保護者の費用負担だけでなく、送迎の時間や労力軽減という根本解決のため、JRのみ利用者の補助や大学生などへの対象拡大も今後検討します。

問 JRやミヤコーバスからの乗り継ぎ改善のため、運行時間を調整できないか。

問 AIデマンド交通の実証運行の目的や実施の内容は。

答 ミヤコーバスとの協議や地域公共交通会議での検討を進め、乗り継ぎ時間の改善に努めていきます。特に通勤・通学時間帯の接続を優先的に見直します。

答 「気軽にお出かけできる町」を目指し、利用率向上に向けた様々な施策を実施します。予約状況や人流データを将来の交通網再編に活用し、利便性の向上に努めていきます。



さらなるサービス提供を期待

「加美町振興公社決算報告」

6月 定例会

[本会議] (6/9～11) 3日間

6/9 一般質問 4人

6/10 一般質問 5人

6/11 一般質問 1人

・議案審議

議員改選後初の開催となる定例会は、6月9日から11日までの3日間で開催され、初当選した4人を含む10人の議員が町政について一般質問をしました。

議案審議では、令和6年度加美町振興公社決算報告などの報告が6件、専決処分が3件、条例改正4件のほか、令和7年度一般会計補正予算や教育委員の任命同意など20議案を審議し、原案のとおり可決しました。

定例会で審議した内容

報告	6件
専決処分の承認	3件
条例の一部改正	4件
物品購入契約の締結	3件
補正予算	3件
人事案件	1件



温泉総選挙2024で全国1位！
営業利益黒字化

地域活性化プロジェクト「温泉総選挙2024」の「レジャー／街から部門」で、「やくらい薬師の湯」が全国1位を獲得した効果もあり、今回の決算内容は、今まで以上に良好でした。「薬師の湯」だけではなく、「やくらいコテージ」などの関連施設も営業利益が黒字となっています。

グランプリ受賞の宣伝効果をフル活用し、ホームページやSNSで発信するなど、社員の努力も大きかったと言えます。

振興公社では全国1位に甘んじず「さらなるサービス提供」に向け、人材教育を強化していくとのことであり、今後ますますのサービス充実を期待していきましょう。



明るく元気なスタッフがお出迎え（薬師の湯）

問 栽培を停止したワサビ栽培園について、令和7年度は地代や園地管理業務の継続とあるが、具体的な内容は。

答 草刈りなど施設の維持管理をお願いするものです。施設の活用案を検討中であり、今後農地に戻すことも考えられます。



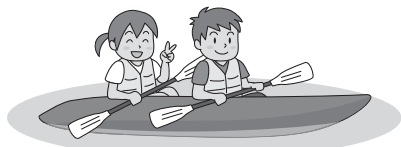
地域の雇用を支えることも加美町振興公社の大きな役割

問 施設の中には採算性の高いところと、そうではないところがあると思うが、町は民間に委託する考えはあるか。

答 民間委託の方法と同時に、振興公社の利益を伸ばす考えもあります。地元の雇用を守ることと整合性を取りながら検討していきます。

令和6年度の地域還元

- 中新田中学校へ
バレーボール用支柱 2本
- 小野田体育館へ
ジェットヒーター 2台
- 中新田B & G海洋センターへ
ジュニア用カヤック 2艇
- 女性防火クラブへ
はっぴ 80着
- 中新田体育館へ
体操用床マット 1セット



地域に利益を還元

「かみでん里山公社決算報告」



宮崎生涯学習センター設置設備 太陽光発電設備 58.48kw
蓄電池 20kw

かみでん里山公社による令和6年度の電気料金削減額は、4千793万円で、そのうち85の公共施設における削減額は4千146万円でした。

地域還元として、大崎市に150万円、涌谷町・美里町・色麻町に各50万円を寄付したほか、加美町には中学校用バレーボール支柱や、防火クラブはっぴなどの物品が寄贈されました。

(左上表参照)

問 当期純利益の額は、町として見込みどおりの額なのか、予想を下回っているのか、今後の見通しは。

答 昨年より供給量が増えたことで売上高は伸びているものの、電気事業法により新たに適用された容量拠出負担金が利益を圧迫し6%の減益となりました。

令和7年度は供給規模を維持しつつ、市場の状況を見ながら慎重に供給を行っていきます。

統合に向けた車両の配備

小野田小学校スクールバス購入



東小野田小学校の位置に「小野田小学校」として開校

小野田地区の3小学校を統合し、来年度から誕生する「小野田小学校」の開校準備が順調に進んでいます。

本定例会では、通学用スクールバス購入のため、指名競争入札の落札業者と町との契約締結を議決しました。納車は令和8年2月になります。

新しい時代の学びのために

学習用タブレットを共同更新



未来を担う子どもたちのための学習環境を整備

GIGAスクール構想により、令和2～3年度に1人1台整備された学習用タブレットが更新時期を迎えています。

今回の更新では購入費用の削減を図るため、加美町を含む県内19の市町で共同調達を行うこととなりました。

人事案件

加美町教育委員の任命同意



野村 清正 さん

令和7年6月25日で任期満了となる野村清正さん(並柳)の再任を同意しました。

任期は令和7年6月26日から4年間です。

【略歴】

平成26年10月、
広原小学校校長
平成31年4月、
古川中学校校長
令和4年4月、
加美町教育委員

教育委員とは？

教育委員会を構成する委員のこと。教育委員会の意思決定に参加し、教育行政の重要事項を審議・決定する役割を担います。

補正 予算

6月定例会では、河川への油流出対策費用やドラゴンカヌー大会事業補助金など、歳入歳出にそれぞれ1億2千553万7千円を追加し、総額149億8千582万2千円とする一般会計補正予算を原案のとおり可決しました。

一般会計補正予算

主な内容		補正額
歳入	特別交付税	1,400万円 ^増
	活力創出基盤整備交付金	3,341万円 ^減
	家畜堆肥活用促進事業補助金	500万円 ^増
	財政調整基金繰入金	6,000万円 ^増
	町道整備事業債	4,260万円 ^増
歳出	情報システム委託料	917万円 ^増
	油流出対応業務委託料	3,375万円 ^増
	土づくりセンター ホイルローダー更新	1,298万 ^増
	やくらい薬師の湯 設備修繕工事	160万円 ^増
	中新田図書館 消防設備修繕工事	1,298万円 ^増
	ドラゴンカヌー大会 事業補助金	55万円 ^増

早期の原因究明を

下野目で原因不明の油流出

2月20日、小野田下野目の筋川から油漏れの通報があり、調査の結果、筋砂川橋から5m上流の左岸、セメントの目地付近から油を含んだ気泡が発見されました。すぐに目地のコーキングを行いました。他の目地からも染み出てくる目地からも染み出てくる

ことから期待された効果はありませんでした。その後、さらに15m上流からも流出が確認され、油の流出量は多くなっています。

現在、下流への流出を防ぐため回収対応を行っており、早急な原因特定が求められています。

流出確認後の対応

- 【今まで】町職員
- 土嚢・オイルフェンスの設置 ^{写真①}
- オイルシート(吸着剤)による除去作業
- 【これから】委託
 - 専門業者へ除去作業を委託
 - ◆原因究明のためのボーリングなどの専門的調査は当初より継続 ^{写真②}



②ボーリング調査を実施したものの原因特定には至らず



①河川にオイルフェンスを設置

4月の臨時会の補正予算は流出調査委託料を計上したもので、ボーリング調査を行いました。まだ原因究明まで至っておりません。今後、さらにボーリング調査やほかの調査も検討し原因究明に努めていきます。

答

今回の補正予算は、今まで町職員で対応していた田んぼに流れ出た油を吸引する作業と、筋川に流れた油の回収を専門業者に委託する経費となります。

4月に補正計上した調査委託料には、まだ執行していない部分もあるため、現在計上している予算の範囲内で原因を特定することができると考えています。

答

4月に補正計上した調査委託料には、まだ執行していない部分もあるため、現在計上している予算の範囲内で原因を特定することができると考えています。

問

公害対策費の補正予算は油流出対応業務委託料とのことだが、4月臨時会においても調査委託料と業務委託料が計上されていたのでは。

問

今後、原因究明のために、さらに補正予算が計上される可能性はあるのか。

6/29

バッハホールのある誇りを再確認

富田一樹さんパイプオルガンリサイクル

中新田バッハホールで、及に尽力されています。オルガニスト富田一樹さんのリサイクルが開催されました。

富田さんは関西を拠点に活動され、全国各地のコンサートへの出演や、Youtubeチャンネルでパイプオルガンを紹介するなど、オルガン音楽の普及に努めています。

富田さんは関西を拠点に活動され、全国各地のコンサートへの出演や、Youtubeチャンネルでパイプオルガンを紹介するなど、オルガン音楽の普及に努めています。



パイプオルガンの修繕技術のある職人も少数に

7/9

課題を希望へと反転させるエンジン

中新田高校・東北学院大学と連携協定

東北学院大学土樋キャンパスにて、同大学・中新田高校・加美町による地域活性化を実現する人材育成に向けた包括連携協定式が行われました。

本協定の目的は、加美町というフィールド（舞台）、高校生の創造力、大学の多様な教育研究資源を相互に結び付け、課題を希望へと反転させるためのエンジンを組上げるものです。

議会としても、大学生の新たな視点が地域にとって最大限に効果をもたらすようしっかりと協力していきます。



高校、自治体との三者協定は同大学では初の試み

カミング 加美ing! 議員

町や関係団体から案内のあった行事に参加し、体感したことを議会や議員の目線でご紹介します。

6/1 我が町の雄大な自然と深い歴史 「加美町ウォーキング2025～夏～」

歩きながら楽しく交流♪



加美町スポーツ協会主催の「加美町ウォーキング2025～夏～」が開催されました。

道中ゴミ拾いをしながら、加美町の自然を大切にする意識を深めるため、宮崎支所周辺を3時間かけて歩くイベントです。

途中で立ち寄った洞雲寺跡や宮崎城跡などでは、町の学芸員から由来などの説明があり、町に刻まれる歴史の壮大さを感じることが出来ました。

初めての参加でしたが、とても有意義な行事が加美町にはいっぱいあると実感いたしました。これからも積極的に参加していきます。

6/29 高原の風景を楽しみながら疾走 ツール・ド・347



暑さに負けず、加美町の豊かな自然を感じながら走ります

やくらいウォータープークをスタートしたのは252人。参加者の最年少者は6歳、最年長者は81歳で、北は、北海道から、南は兵庫県と、毎年楽しみにしている愛好者が多かったようです。

当日は天気に恵まれ、それぞれロング・ショートコースの目標を目指して、軽快に駆け抜けていきました。

町政を問う 10人が質問

似顔絵を描いてくれたおともだち

加美町立認定こども園

おのだ園
きりん組



一般質問目次



通告1番 伊藤 由子 (いとう ゆうこ)

新庁舎 9ページ

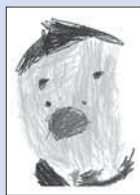
建設費39億円で足りるのか



通告6番 木村 哲夫 (きむら てつお)

住民バス 11ページ

乗客のニーズに沿った運行を



通告2番 田中 草太 (たなか そうた)

観光振興 9ページ

人流を可視化し 稼ぐ観光へ



通告7番 早坂 忠幸 (はやさか ただゆき)

加美病院 12ページ

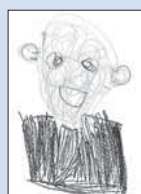
収益悪化 改革の時期では



通告3番 三浦 英典 (みうら ひでのり)

地域の存続 10ページ

旭コミュニティの活動状況は



通告8番 早坂 伊佐雄 (はやさか いさお)

障がい福祉 12ページ

グループホームの誘致を



通告4番 今野 清人 (こんの きよと)

不登校支援 10ページ

全ての子供に居場所提供を



通告9番 佐藤 圭介 (さとう けいすけ)

新庁舎 13ページ

長年の懸案を決着する決意は



通告5番 早坂 潔 (はやさか きよし)

高齢者福祉 11ページ

紙おむつ助成事業を公平に



通告10番 高橋 聡輔 (たかはし そうすけ)

活性化策 13ページ

中新田河川敷 人気の要因は

- 一般質問…議員が、町への政策提言や町の課題などについて、町に質問すること。
(掲載しているQRコード(議員写真下)で、録画映像を視聴できます。)

新庁舎

建設費39億円で足りるのか

新整備室
舎長

39億4,800万円以内が目標

問

大屋根と大ひさし、南側のガラスウォールは、多額の維持管理費がかかるとの指摘があった。実施設計には反映していくのか。

問

建設費のコメントでは「人件費・資材費高騰の予測をしているのか」「平米単価をどの程度みているのか」の声があるが。

問

コメントに、「宮崎支所はまだ使えるのではないか」の声が多々あった。支所の充実についての考えは。

質問のねらい

パブリックコメントの住民の声に耳を傾け、無駄を省いた将来世代に負担をかけない庁舎建設をすべきではないか。



伊藤 由子 議員



録画映像

観光振興

人流を可視化し 稼ぐ観光へ

町長

観光地としての成熟を推進

問

加美町の観光動態を正しく把握するために、GPSデータを活用した人流の調査・分析が必要だと考える。検討状況は。

問

「食」は観光の目的になり得る。加美町の「食」の魅力を磨き、稼いでいくための今後の施策や方針は。

問

観光客が増え、道路の混雑など、住民の不便が発生しつつある。対策の実施・検討状況は。

質問のねらい

加美町には魅力的な観光資源がたくさんある。資源を活かしてしっかりと稼ぎ、地域にお金が残るように、質問・提案を行った。



田中 卓太 議員



録画映像



ガラスウォールは見映えはよいものの……

問

建設費の財源は、合併特例債の39.3億円と庁舎整備基金9.7億円が充てられるということだが、これで足りるのか。

問

今のところ、合併特例債が39.3億円、庁舎整備基金については9.7億円とかなりの額を見込んでいる。

その他の質問

投票率向上のための施策について

問

加美町の観光客は日帰りがほとんど。観光消費を伸ばすために、宿泊事業者の誘致を推進しては。

問

具体的な誘致活動は行っていないが、どのような事業者が加美町に合うかなどもまとめながら、少しずつでも推進に努める。



提供場所の問い合わせも多いアユの塩焼き

その他の質問

農業振興について
学生の交通手段について

地域の存続

旭コミュニティの活動状況は

町長

絆が強く、活発になり非常にいい

問

町民のコミュニティはとても大切。日常の安心・安全の源になっている。旭地区のコミュニティ活動の評価は。

町長

コミュニティがしっかりしていると地域が活発化し、絆も強くなる。町もサポートする形で輪を広げていくのがベターと感じている。

問

旭地区では小学校がなくなる時点で地域の存続について話し合いが持たれたと思うが。

ひとこと推進課長

この地域を自分達で何とかしたい」の声を受けて町が支援。平成28年6月に準備委員会発足。コロナ禍もあり大変だったが自発的に活動がスタート。



旭地区地域づくりセンターを活用して行われた令和6年度のマルシェ

質問のねらい

地域の自発的活動は活性化と人の絆の強化につながる。また、それにより公共物管理の経費節減に繋がっているか伺う。



三浦 英典 議員



録画映像

問

活動の中には公共物管理も含まれているが、維持管理経費の削減に繋がっているか。

ひとこと推進課長

公民館の維持管理費はもともと人件費の割合が大きい。旭地区では、地域の実情をよく知っている方が集落支援員として活動しているが、特別交付税による財政措置がなされるため経費削減に繋がっている。

その他の質問

宮崎地区ナイトバザールについて

不登校支援

全ての子どもに居場所提供を

教育長

多様な学びの機会を確保する

問

不登校児童・生徒への支援体制は。

教育長

学校以外の居場所を希望する場合はオンラインによる学習支援や児童・生徒支援教員を派遣している。また、加美町子どもケアハウスでも支援を行なっている。

問

不登校児童・生徒の健診の状況と未受診への対応は。

教育長

時間をずらしたり、別室での健診を行なっている。また、担当の学校医の病院で無料で行い結果を学校に提出してもらっている。

問

健全な成長のためには健診が重要である。すべての子どもの受診が必要ではないか。

総務課長

自校での健診が出来ない児童には、外部機関、町長部局、医療機関などの協力を得て、受診率100%を目指していきたい。

教育長

教育機会確保法のもと、不登校は問題行動ではないとの認識で、個々に応じた対策を考えながら将来社会で自立できるよう関係機関と連携していく。



子どもたちの健全な成長のために

質問のねらい

多様性の時代に全ての子どもに学習や健康の管理の機会を平等にしたいという思いから町の不登校支援の状況を伺う。



今野 清人 議員



録画映像

その他の質問

学生の通学支援について

高齢者福祉

紙おむつ助成事業を公平に

町長 近隣市町を参考に検討

問 在宅介護世帯での負担は増大している。紙おむつ助成事業は現状で非課税世帯のみが対象となっているが公平に負担軽減できる方策はないか。

町長 対象は非課税世帯または均等割のみ課税世帯となっている。低所得世帯の負担軽減方針から限定していたが近隣市町の動向なども参考に今後検討したい。



介護に必要な物品に助成を

問 おむつ助成という言葉では紙おむつに限ったように聞こえるが、紙パンツなどの消耗品も介護用品と認識すべきではないか。

町長 消耗品も助成事業の対象として認識している。

問 大崎市では在宅介護世帯に月額1,500円のおむつ券を助成している。現行制度に加えて拡充は出来ないか。

町長 低所得者の負担軽減という形を取っているが、近隣の動向を踏まえて負担軽減を検討したい。



早坂 潔 議員



質問のねらい

紙おむつ助成事業は非課税世帯など限られた対象だが、実際には在宅介護世帯の数は多く、公平に負担を軽減するにはどうするか。

問 施設入所の対象となる要介護3を基準として、段階的に助成する方策を考えてほしい。

町長 町のおむつ助成は低所得世帯の方々への助成が発想の根本である。高齢化率の上昇が止められない現状であり前向きに検討したい。

その他の質問

● AED使用の普及とブライバシーの配慮について

住民バス

乗客のニーズに沿った運行を

町長 AIシステム導入で改善実施

問 中・高生通学用住民バス「小野田・西古川線」と「宮崎・西古川線」の利用状況は。

町長 運行時間と停留所の位置に都合が悪いと感じている方が多く、利用者数が伸び悩んでいる状況。運行計画の見直しに早急に取り組んでいきたい。



J R西古川駅で待機する住民バス

問 バスの追跡調査を行った。西古川線ではマイコーバスと競合しない中新田地区にバス停を設置することや、宮崎線と小野田線が並走する区間での乗り換えが可能ではないかと感じたが。

町長 実証運行であり、今後、路線経路の改善や、時間変更などは地域公共交通会議で検討したい。

問 全町民を対象の、AIを活用したデマンド交通の実証運行の内容は。

町長 現在、前日17時までの予約が必要であるが、11月頃導入予定のAI運行経路作成システムにより、1時間前までの予約が可能になる。



木村 哲夫 議員



質問のねらい

住民の足（交通手段）の確保がますます大切になる。西古川線の現状と改善点、AIを活用したデマンド交通の実証運行計画を検証する。

問 システム導入は、住民の要望や地域特性のニーズに沿ったものが望ましいが。

町長 国の地方創生交付金を活用し、気軽にお出かけできるまちのプロジェクトとして、AIによる運行システムの改善を実施していく。

その他の質問

● 地域経済の活性化について

収益悪化 改革の時期では

町長

考える時期と認識している

問

前年度は収支状況1億4千万円の赤字。令和7年度は9千万円の赤字予算でスタートし、秋にも追加負担が予想されるが。

町長

年度末には預金残高不足により追加負担が必要となる。両町の財政負担への影響を考慮し、負担金の抑制を図りたい。

問

病院経営の人員費率は50%が目安とあるが、加美病院は90%を超える時がある。

町長

公的な病院は60%位と認識している。80%以上になると大変厳しくなる。今後なんらかの方法で改善をしていきたい。



心配される病院経営

問

外来患者数も減少している。令和7年度の見込みでは1日あたり88人である。個人病院と比べても多いとは思えないが。

町長

4月から医師2人が増員され6人体制となった。一部休診が改善されることにより、医療収益の改善に期待している。

質問のねらい

年々増加する負担金が両町の財政を圧迫する要因となっており、令和7年度も赤字予算でスタートしている。今後の在り方を考えるべき。



早坂 忠幸 議員



録画映像

問

6人体制となったことにより午後休診が解消されたようだが、両町の住民へ周知がないように思うが。

町長

病院のホームページなどでPRしているが、両町の広報紙にも掲載し周知していく。

その他の質問

●新庁舎建設について

グループホームの誘致を

町長

先進地視察も含めて検討

問

令和7年3月には認定こども園おのだにし園も統合になった。跡地利用をどのように考えているか。

町長

早めに地域の皆さん意見を聞くような委員会を立ち上げたい。

問

行政が主導でやれば、物事がより前向きに進むのではないか。

町長

地域の方からの意見はいただくものの、こちらとしても幾つかの案を用意して早急に準備に入りたい。



有効活用が期待される公共施設

問

町内の身体障がい者と知的障がい者数と受入れ施設の状況は。

町長

身体障がい者は手帳交付者が98人、療育手帳交付者が26人、精神障がい手帳交付者が167人、合計で141人である。また、加美町障がい者自立支援センター、クローバーハウス、やぐらアットハウスの3施設を59人が利用している。

問

過去2ヶ年の教育民生常任委員会の要望は2つあり、グループホームの誘致と敬老祝い金の増額であったが。

町長

私自身が動けていなかった部分もあり、先進地視察などから始めたい。敬老祝い金は相当前向きに考える。

質問のねらい

西小野田地区は農協の支所もなくなり、こども園も統合になった。この一角を福祉ゾーンにして地区の活性化にしたい。



早坂伊佐雄 議員



録画映像

その他の質問

●鳴瀬川ダムの諸問題について
●中学校部活動の地域移行進捗状況について

新庁舎

長年の懸案を決着する決意は

町長

不退転の覚悟で向かっていく

問 加美町は平成15年の合併から22年が経過した。長年の懸案に決着をつける決意を伺う。

町長 現庁舎は築60年。期限が迫る合併特例債を使わずに新庁舎建設はあり得ない。不退転の覚悟で向かっていく。

問 議員定数が18人以下になった段階で宮崎庁舎の議場を使うとの申し合わせがなされたという話があるが記録はあるのか。

町長 これまでさまざまに記録、報告があるが、宮崎庁舎の議場を使うという書類や決定の記録はない。



新庁舎の完成イメージ模型

質問のねらい

現庁舎の老朽化や令和10年度の合併特例債の期限、更なるコスト増が予想される中、事業の停滞は許されない。粛々と進めるべき。



佐藤 圭介 議員



録画映像

問

合併時に生まれた子どもは既に成人を迎えた。町民の一体感を醸成する意味でもしっかりとした庁舎の建設を求める。

町長 住民サービスの向上とともに、加美町は一つのシンボリックなものとなるよう、しっかりとこの事業に取り組んでいく。

その他の質問

●米不足と農家経営を安定させる施策について

活性化策

中新田河川敷 人気の要因は

町長

県内にはない広さ

問 現在考えている情報発信方法や物販販売のための策は。

教育長 例えば第一・第三日曜日にキッチンカーを出店していただくのを設けることができないかの検討や、あゆの里公園内での大会などの開催情報に加美町振興公社やキッチンカー事業者へ情報提供するなど工夫していきたい。

問 中新田の河川敷の利用が多いが、その要因は。

学生部長 野球、ソフトボールの会場として3試合合同時に開催できる点が大きいです。

町長 県内にはないといえる会場がないと言ってもらっている。また陶芸の里スポーツ公園も3種公認をとり続けていることで来町されている。加美町はいいものをたくさん持っていることをアピールしていく事も大切である。



親子で楽しめる防災キャンプ

その他の質問

●街なか空き家活用事業について

質問のねらい

加美町のスポーツ施設は、多くの人々が訪れているが、なかなか経済に結びつかない。物販などの仕組みで活性化に結びつけられないか。



高橋 聡輔 議員



録画映像

問

B & Gを活用した防災キャンプは、昨年度6人の参加から今年は30人の参加がすぐに埋まったとのことだが、次年度以降の開催は。

町長 及川先生のキャンプ自体が大変面白く、そして自然に災害時の訓練を楽しんで身に着けられるので、子どもたちのいい意味での体験であると思っています。来年は少し大きくできるよう、実務的なことも含めて検討していきたい。

治水・利水の強化に向けて 今年度の事業概要について調査

仮排水トンネル工事を現地視察

現地視察に先立ち、漆沢集会所で国土交通省鳴瀬川総合開発工事事務所から高子秀幸所長ほか4人の職員に出席いただき、事業概要についての説明があった。

令和7年度は、既に着工している仮排水トンネル工事に加え、工事用道路と残土置き場の基盤整備、国道347号線の迂回路などの工事や各種調査を計画しているとのことであった。説明を受けて委員会では、今後増加していく作業員の宿舎や工事

車両の安全対策などについて質疑を通して確認を行った。

工事現場では、建設中の仮排水トンネルを視察。全長997mの内、500m超まで掘削が進んでいるとのことであり、大規模な工事が順調に進んでいることがうかがえた。

この事業は加美町にとっても一大事業であり、町民の関心も一段と高まることが予想される。工事の安全は元より、地元

の振興にも繋がるよう今後も調査を継続していく。



現場担当者から工事の進捗状況の説明



工事が進む仮排水トンネル

《先進地視察レポート》北海道 登別市・苫小牧市 議会改革・議会活性化の取組み

議会運営 委員会

7月7日
視察

「住民参加の議会運営」

北海道 登別市議会

「人」が変わっても継続的・論理的な議会活動を保証する仕組みづくりを目指し、市民・有識者で構成する議会サポーター制度を導入することにより重要課題などに対応している。

随時開催している議会フォーラムでは、スクール形式による質疑方式や基調講演後に意見交換会を行うなど、効果的に市民の意見を聞くための工夫を凝らしていた。また、市民との対話で活発な議論を交わすためには具体的なテーマ設定が必要との説明もあり、加美町としても大いに参考とした。



議会改革度ランキング
3年連続全国1位の登別市

7月8日
視察

「開かれた議会を目指す取組」

北海道 苫小牧市議会

議会をより身近に感じてもらうための特色ある取り組みとして「本会議場の貸出事業」を実施している。また、平成28年度からはその発展形として、定例会の昼休憩中の30分間を利用した「議会コンサー

ト」も開催している。

この事業は市民の議会傍聴にもつながることが期待されることで、本町においても、加美町ならではの議場の活用方法を検討する必要があると感じた。

議会のうごき

加美町議会の主な活動を報告します

5月
～7月

①



下野目の河川の油流出の現状を確認

②



議会が行うべき予算・決算審議についての研修を受講

月 日	本会議・委員会など	内 容
5月	1日 第 5 回 臨 時 会	補正予算の審議、河川油流出現場視察 ①
	15日 総務産業常任委員会	総務・産業部門の令和7年度の主要事業などを調査
	16日 教育民生常任委員会	福祉・子育て部門の令和7年度の主要事業などを調査
	19日 全 員 協 議 会	学習用タブレット端末の更新などを協議
	28日 議 会 運 営 委 員 会	第2回定例会の運営についてなどを協議
6月	3日 鳴瀬川ダム特別委員会	鳴瀬川ダム建設事業について調査
	議 会 運 営 委 員 会	第2回定例会の運営についてなどを協議
	9～11日 第 2 回 定 例 会	一般質問・議案審議など
	27日 議 会 運 営 委 員 会	視察対応（岩手県矢巾町）
7月	3～4日 宮城県町村議会議長会	議員講座（宮城県自治会館） ②
	7～8日 議 会 運 営 委 員 会	視察研修（北海道登別市議会・苫小牧市議会）
	14日 総務産業常任委員会	町税の収納状況などを調査
	22日 全 員 協 議 会	物価高騰対策などを協議
	28日 第 6 回 臨 時 会	補正予算の審議
	31日 教育民生常任委員会	子育て施策について調査

※議会だよりの編集のため、議会広報常任委員会を5回（6/9、17、7/9、16、23）開催しました。

議会傍聴について



傍聴の受付は「小野田支所3階」にて行います。
申請書に住所・氏名・年齢などをご記入ください。
一般傍聴席は「19席のみ」となります。
満席時には、1階会議室で生中継を視聴できます。

インターネットで映像配信しています▶



傍聴・視聴された方（延べ人数）

会 議	傍聴者人数		議会中継(LIVE) アクセス件数
	男性	女性	
6月定例会	32	22	1,049

次回の定例会は

9 月 中 旬

から開催します

議会だよりへ一言

議会だより87号（令和6年11月1日発行）に対する議会だよりモニターからのご意見・ご感想を紹介します。

モニター

〈令和5年度決算〉

「議会はこうみる!」の写真がわかりやすく内容もよくまとまっている。

広報委員会

今後の展開を注視していきたい事業のポイントをまとめました。今後も見やすい紙面づくりを心がけていきます。

視察受け入れ

議会改革（タブレット導入）や議会広報モニターなどについての視察を受け入れました。



6/27 岩手県矢巾町議会



～ 住民総出の除草作業 ～

中新田・上多田川上

おらほの
コミュニティ



除草作業を終えてパチリ

令和4年からは畑わさび栽培に取り組んでいます。4年目の現在は栽培者が4人に増えました。加美町の特産品になる日を夢見て他地域の方々とも意見交換し頑張っています。

は知る人ぞ知る酒米の里でもあります。収穫は比較的少ないですが、安定的な出荷が見込まれるため、大事な収入源と考えています。

当地区は39世帯ならではの団結力が自慢です。毎年、広範囲に及ぶ地域の草刈り作業や防災訓練には、毎戸から2人が参加して活動しています。住民が顔を合わせる機会を嬉しく感じている今日この頃です。



氏家 賢司 区長

世帯数 39世帯
人口 116人
(令和7年6月末現在)

われらが仲間

♪ 農業の楽しさをより身近に♪ 加美よつば青年部宮崎支部



食農への思いを描いた看板の前で
「農」の価値を多くのみなさんに発信し続けていきます。

J A青年部は、若い視点を活かした営農知識の向上と、農業の未来を担うため広い視野の確立を目指し活動しています。
宮崎支部では次世代の農業人材の育成や食農教育を目的とし、地域の小学校と連携して朝の見守り活動や学習田での田植え・稲刈り体験の指導を行っています。秋には「鎌」を使つての稲刈りや「棒掛け」による乾燥、「足踏機械」による脱穀作業など、機械化が進みあまり行われなくなった作業を、子ども達といっしょに泥だらけになつて楽しく行っています。この子たちが農業に興味を持ち、将来、農業に携わってくればとても有難いと思います。
J A宮崎拠点センター西側（自動販売機の裏側）に設置してある看板はご存知ですか？あれは農政看板というもので、農業に親しみも持つてもらおうと我々青年部員が作成しています。今年も力作が完成しましたので、新しく掛け替えられましたらぜひご覧下さい。

議会広報常任委員会 編集委員

委員長 高橋 聡輔
副委員長 伊藤 由子
委員 佐藤 圭介
今野 清人
早坂 潔
田中 草太

編集後記

今号より、新体制での本格的な編集がスタートしました。今年度の議会モニターに關しても新たに委嘱させて頂きました。お引き受けいただきました皆様に感謝申し上げます。
また、モニターの方に限らず、ぜひご意見、ご助言をお寄せいただけると嬉しく思います。
今号から、「加美ing! 議員」という新たな企画を始めました。地域のサークル活動などで、議員の参加や体験が可能なイベントなどがあれば積極的に参加させていただきます。ぜひ、議会事務局までお知らせください。
(高橋聡輔)